

CIR Insights 19

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

2024年秋号 学生対応とFD経験

教員は、悩みや課題を抱える学生に接した際、どう対応すべきか難しさを感じることがあります。2023年度実施の教員調査によると、「就学意欲が低い学生」「心身の健康を損なっている学生」「不登校状態の学生」の順で、本学教員が対応の難しさを感じていることがわかりました(左図)。他方、教員研修や専門書を通して授業設計や学生理解等について学んだ経験がある人は、難しさの認知が高い傾向にあるようです(右図)。裏面では、学生相談・特別支援センターの先生方に寄稿いただき、学生対応に関する困り事の特徴と困ったときの相談先について紹介しています。ぜひご活用ください。

CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41
Tel: 022-795-4931
Fax: 022-795-4749
E-mail: cir@grp.tohoku.ac.jp
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

データについて

今回使用するデータは、2023年度末に実施した「第3回 東北大学教員の教育に関する調査」の結果を集計したものです。全938名の回答者から研究指導実績のある656名分を取り出し、学生対応とFD経験の相関関係を探りました。

紙面左側は学生対応7項目に関する回答(1: ない/ 2: まれにある/ 3: たまにある/ 4: よくある)の平均です。

右側ではFD経験のうち「授業設計」と「学生理解」に焦点を絞り、回答(経験なし—研修経験—専門書等)によって学生対応7項目の平均値がどう異なるかを示しています。

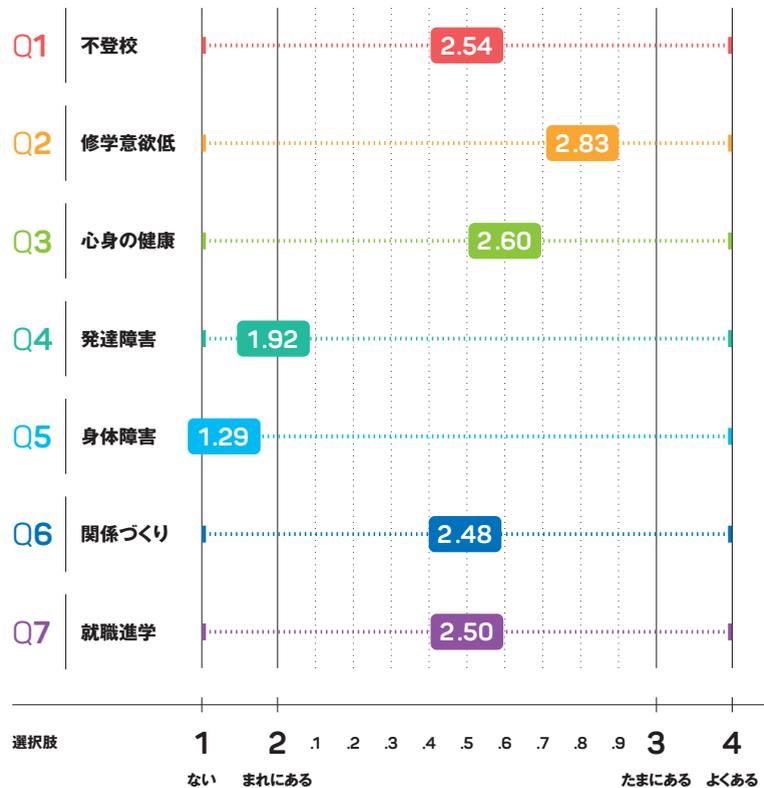
*FD (Faculty Development) 大学の教員が授業の内容や方法を改善し、向上させるために実施する取組のこと。

凡例

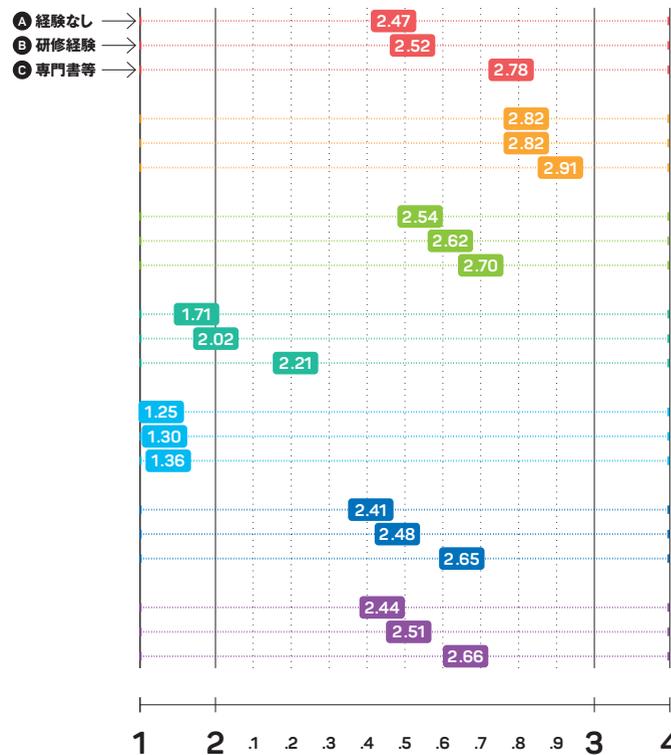
- Q1: 不登校の学生
- Q2: 修学意欲の低い学生
- Q3: 心身の健康を損なっている学生
- Q4: 発達障害のある学生
- Q5: 身体障害のある学生
- Q6: 教員や他の学生との関係づくりが苦手な学生
- Q7: 就職や進学について悩んでいる学生

- Ⓐ: 学習・研修経験はない
- Ⓑ: 研修を受けた経験がある
- Ⓒ: 専門書等で学んだことがある

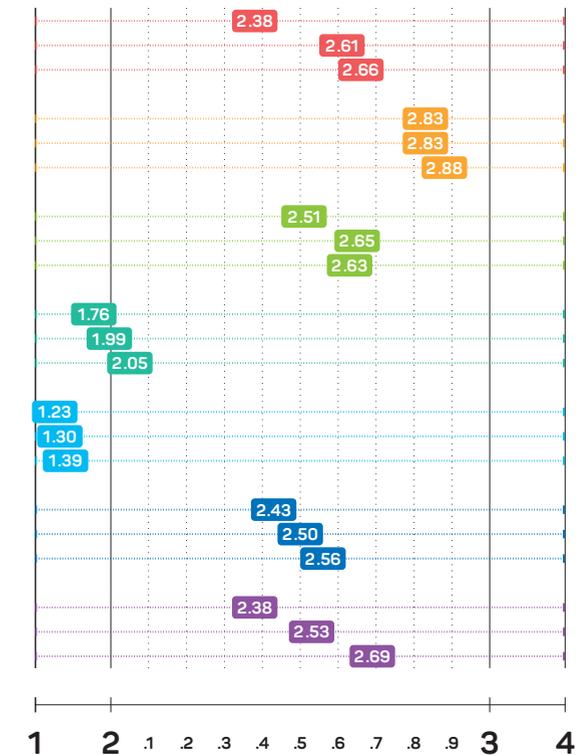
Q 東北大学での授業や研究指導において、次のような学生への対応に難しさを感じたことがありますか？



[授業設計] FD経験の有無による平均値の違い



[学生理解] FD経験の有無による平均値の違い

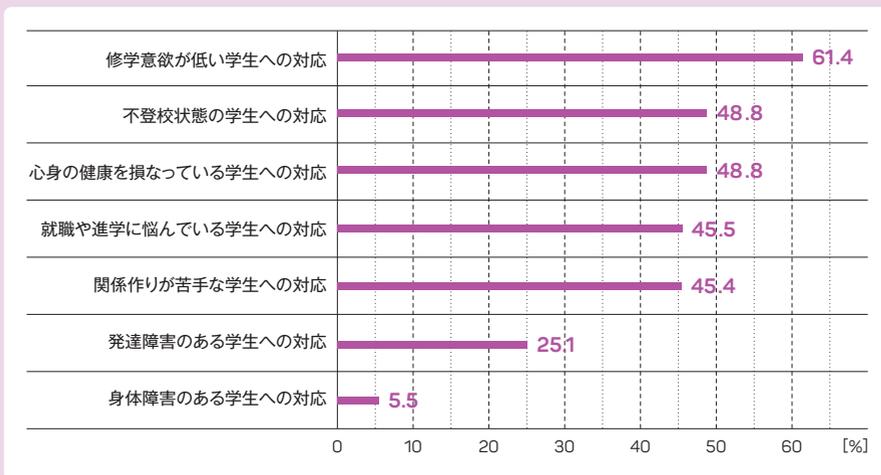


先生方の困り事の特徴

本調査結果から、先生方の学生対応に関するさまざまな困り事が明らかになりました。就職や進学について悩んでいる学生、心身の健康を損なっている学生、不登校状態の学生などへの対応などに苦労されている先生方が少なくないことが分かります。中でも最も多く見られた困り事は修学意欲の低い学生への対応であり、対応に難しさを感じる先生の割合は6割を超えていました(下図参照)*。もちろんこの中には不登校状態の学生・心身の健康を損なっている学生などへの対応が含まれることも考えられます。

修学意欲が低いと先生方が感じられることの背景としては、学力の低下、就職活動に早い時期から取り組まなければならないということ、博士課程の学生にとってはアカデミックの世界に残ることができる可能性が難しい状況になっていることなどがあると捉えられています。その他に、入学動機が多様化、学生の出席状況が把握される状況になったために授業を欠席する学生が目立つようになってきたことなども考えられます。

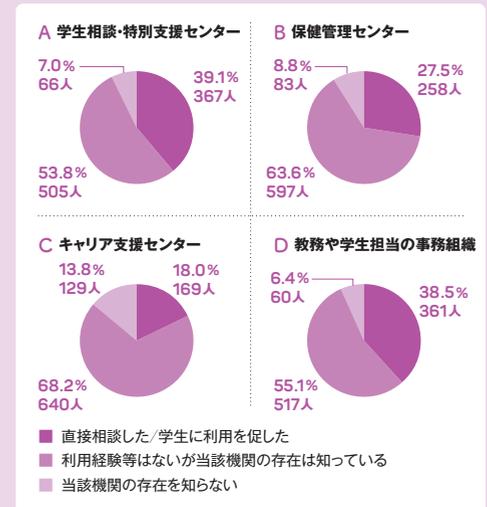
先生方ご自身が受け持っている授業や研究室だけではなく、このような状態像の学生が一定数見られることが自然な状況であること、先生方の共通する困り事であるという認識を持って、周りの関係者や相談窓口と協力・相談しながら対応することをお勧めいたします。



* 表面とは異なり、東北大学の回答者全938名分のデータを使用しています。また数値は、「よくある」、「たまにある」、「まれにある」、「ない」のうち、前2者の合計比率を表します。

先生方の相談先

先生方が学生対応で困った際にどこに相談したり、どこに学生を相談するように促したりしたかを尋ねたところ、相談先の存在は9割近くの先生方がご存知でしたが、実際に利用経験がある先生方は2~4割でした(下図参照)。つまり、相談先の存在は知っているけれども利用経験がない先生方が5~7割程度いることがわかりました。学生対応に困らないという場合もあるかもしれませんが、周りの相談資源を活用せずに対応されている先生方が一定数いることが推測されます。特に学生対応に真剣な先生ほど、自分ひとりで対応しなければならないと知らず知らずのうちに抱え込んでしまうこともあると思います。



本学には先生方が利用できる様々な相談先(相談窓口)があります。右の図をご参照いただき、アクセスしやすい相談資源を活用しながら、学生支援にあたることをお勧めいたします。

相談内容

- 学生への対応に関する相談 → A B D
- 学生の学業に関する相談 → A D
- 学生の心身の健康に関する相談 → A B D
- 学生の就活やキャリアに関する相談 → A C D

先生方が利用できる相談窓口

- A 学生相談・特別支援センター(全学)**
Tel: 022-795-7833 (学生相談所: A1)
022-795-7696 (特別支援室: A2)
<https://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp>
- B 保健管理センター(全学)**
Tel: 022-795-7836 (事務室)/022-795-7829 (診療室)
<https://www.health.ihe.tohoku.ac.jp>
- C キャリア支援センター(全学)**
Tel: 022-795-7770
<https://www.career.ihe.tohoku.ac.jp>
- D ・各部局の担当事務
・各部局の相談室(※ 独自の相談室をもつ部局の場合)

東北大学 川内北キャンパスマップ

